

# 26PA-am001

テンナンショウ(天南星)の基原植物のフェノロジーについて

○福田 達男<sup>1</sup>, 阿部 愛実<sup>1</sup>, 石川 寛<sup>1</sup>, 小林 義典<sup>1</sup> (<sup>1</sup>北里大・薬)

【目的】テンナンショウ(天南星)の基原植物であるマイズルテンナンショウ *Arisaema heterophyllum*, *A. consanguineum*, *A. amurense* の栽培に当たり, これまで種子繁殖の他小塊茎を用いた栄養繁殖が可能であることを報告している<sup>1,2,3)</sup>.

本研究では栽培敵地を検討するためフェノロジー(季節的消長)の調査を行った.

【材料及び方法】2016年3月2日マイズルテンナンショウ, *A. consanguineum*, *A. amurense* の各塊茎15個の重さ, 高さ, 幅及び芽の数を測定し, 測定後塊茎1個を赤玉:腐葉土:畑土=1:1:1の用土を入れた直径14cm, 高さ17cmのポットに定植した. 定植後は各個体の萌芽, 葉の展開や枯死, 仏炎苞及び肉穂花序の形成や枯死, 果序の形成等のフェノロジーを調査し, 12月には各ポットの塊茎の測定を行った.

【結果及び考察】*A. amurense* は3月中旬から4月中旬にかけて萌芽し, 4月下旬には全ての葉が展開し8月上旬には枯死した. 仏炎苞は葉と同時に伸長し, 5月上旬に枯れ, 雌花序は果序を形成し, 10月上旬に果実が赤く熟した. マイズルテンナンショウは4月中旬から下旬に萌芽し, 5月中旬には全ての葉が展開し, 9月上旬までに枯死した. 仏炎苞は5月上旬に鞘状葉の最上部から伸び始め中旬には展開し6月上旬には枯れ, 雌花序は果序を形成し11月中旬に熟した. *A. consanguineum* は5月中旬から7月中旬にかけて萌芽し, 7月下旬には全ての葉が展開し11月中旬に枯死した. 仏炎苞は葉と同時に伸長し, 8月中旬に枯れ, 雌花序は果序を形成し翌年1月に熟した. このように, 3種の基原植物は萌芽時期が異なり, それに伴い葉の展開, 仏炎苞や果序の形成などフェノロジーが異なった. *A. amurense* は葉が8月上旬には枯死したことから, 寒冷地が栽培敵地と推測された.

1,2)日本薬学会第132回年会, 2012, 第134回年会, 2014. 3)日本生薬学会第63回年会, 2016.